

病防第22号
令和8年（2026年）7月21日

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

水稻海外飛来性害虫の飛来状況（技術情報第5号）について（送付）

このことについて、トビイロウンカ、コブノメイガの飛来状況を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

梅雨期間中のトビイロウンカの飛来量は平年並であったが、今後の気象予想から増殖が早まる可能性があるため、最新の防除適期予測情報の把握に努め、計画的に防除する。
コブノメイガは断続的に飛来しており、既に多発ほ場が散見されるため、ほ場内をよく観察し、要防除水準を超えた場合は適期に防除する。

1 飛来状況

（1）トビイロウンカ

合志市に設置した予察灯では、7月3日に初飛来があり、その後7月7日に主飛来となる76頭が誘殺された（表1）。6月初めから梅雨明けまでの累計は96頭（平年119.2頭）と平年並の飛来量であった（表2）。

（2）コブノメイガ

合志市に設置し6月1日から調査を開始したフェロモントラップでは、6月19～22日の飛来確認から断続的に誘殺された（表1）。以降、梅雨明けまでの累計は19頭（平年114.7頭）と平年比やや少の飛来量であった（表3）。

2 発生状況

（1）トビイロウンカ

合志市に設置した無防除水田（5月15日移植）では、7月14日にトビイロウンカの定着を確認した（1頭/60株）。7月中旬の定点調査（36か所）においても、複数のほ場で寄生が確認された。

（2）コブノメイガ

合志市に設置した無防除水田（5月15日移植）では、6月15日からコブノメイガによる被害（葉巻き）を確認した。フェロモントラップ調査を開始した6月1日以前にも飛来があったと考えられる。7月14日には被害株率30%と要防除水準を超えていた。

7月中旬の定点調査（36か所）では、早植え、普通期とも複数のほ場で被害が発生している（写真）。

3 防除対策

- (1) トビイロウンカの主飛来日（7月7日）を起点にトビイロウンカの防除適期を算出した（表4）。薬剤散布の効果は、若齢幼虫期（1～2齢）が最も高いため、予測される適期内で早めに防除する。トビイロウンカの飛来量は地域やほ場によって、増殖量は品種や箱施用剤の種類によって異なる。特に、早植え水稻では、すでに箱施用剤の防除効果が低下しているため、防除適期を失しないように注意する。

トビイロウンカは水稻の株元近くに生息しているため、液剤（粉剤）で防除する場合は薬剤が株元に到達するように十分量を丁寧に散布する。

- (2) コブノメイガの防除適期は、粒剤では発蛾最盛期、液剤（粉剤）では若齢幼虫期（発蛾最盛期の1週間後）である。フェロモントラップで初誘殺を確認した6月22日を起点にコブノメイガの防除適期を算出したので、ほ場観察の参考にする（表5）。

ただし、一部のほ場では6月上中旬頃から発生が確認されているため、多発しているほ場では、要防除水準（第1世代幼虫による被害株率が20%以上）に基づいて防除する。

- (3) 向こう1か月の気温は、平年より高く推移する予想であることから、両害虫ともに今後の増殖が現時点の予想より早まる恐れがある。防除あたっては最新の適期予測情報を病虫害防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）で確認する。

- (4) 農薬の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに周辺作物や有用昆虫、魚介類等の環境に影響がないよう飛散（ドリフト）防止に努める。付近にミツバチの巣箱が設置してあるほ場では、事前にその管理者に連絡する等、農薬による危害防止に努める。

表1 トビイロウンカとコブノメイガの誘殺状況（令和8年、合志市）

調査日	トビイロウンカ	コブノメイガ	調査日	トビイロウンカ	コブノメイガ
6月19日	0	8	7月1日	0	0
6月20日	0		7月2日	0	1
6月21日	0		7月3日	6	0
6月22日	0		7月4日	1	1
6月23日	0	1	7月5日	0	
6月24日	0	0	7月6日	0	
6月25日	0	1	7月7日	76	1
6月26日	0	1	7月8日	11	0
6月27日	0	0	7月9日	2	0
6月28日	0		7月10日	0	2
6月29日	0		7月計	96	5
6月30日	0	3	6・7月計	96	19
6月計	0	14			

※トビイロウンカ類は予察灯、コブノメイガはフェロモントラップの誘殺頭数。

表2 予察灯におけるトビイロウンカの半旬別誘殺数（合志市）

月	6月						7月						計※	梅雨明け
半旬	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6		
H28	0	0	0	0	0	1	0	0	34	4			39	7月18日
H29	0	0	0	0	1	0	0	4	7				12	7月13日
H30	0	0	0	0	5	0	0	0					5	7月9日
R1	0	0	1	0	0	1	27	2	49	12	4		96	7月25日
R2	0	7	0	0	0	2	226	402	119	2	7	17	782	7月30日
R3	0	0	0	0	0	0	0	2	0				2	7月13日
R4	0	0	0	0	0	8	0	7	2	73	2		92	7月22日
R5	0	0	0	0	0	0	32	1	3	0	1		37	7月25日
R6	0	0	0	0	17	1	106	0	0	3			127	7月17日
R7	0	0	0	0	0	0							0	6月27日
平年値	0.0	0.7	0.1	0.0	2.3	1.3	43.4	46.4	26.8	15.7	3.5	17.0	119.2	7月19日
R8	0	0	0	0	0	0	7	89					96	7月8日

※6月初めから梅雨明けまでの累計とした。

表3 フェロモントラップにおけるコブノメイガの半旬別誘殺数（合志市）

月	6月						7月						計※	梅雨明け
半旬	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6		
H28	0	0	0	0	0	20	3	8	6	0			37	7月18日
H29	0	0	0	0	0	5	8	9	3				25	7月13日
H30	0	0	0	0	0	1	3	0					4	7月9日
R1	0	6	16	7	2	0	5	7	5	19	1		68	7月25日
R2	0	1	6	51	383	47	36	44	63	108	70	60	869	7月30日
R3	0	0	0	0	0	1	2	0	8				11	7月13日
R4	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	0		8	7月22日
R5	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0		7	7月25日
R6	0	0	0	1	0	4	8	1	1	0			15	7月17日
R7	0	0	0	0	0	3							3	6月27日
平年値	0.0	0.7	2.2	5.9	38.5	8.4	8.2	8.0	10.8	21.2	17.8	60.0	104.7	7月19日
R8	0	0	0	4	6	4	2	3					19	7月8日

※6月初めから梅雨明けまでの累計とした。

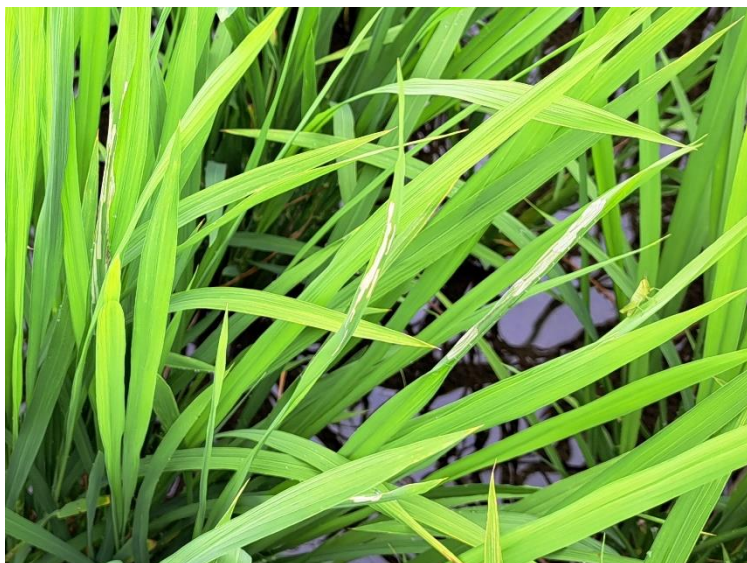


写真 コブノメイガによる被害

左：早植え（7月16日撮影）、右：普通期（7月16日撮影）

表4 予測されるトビイロウンカの防除適期（令和8年7月7日飛来を起点）

地点名	熊本	三角	岱明	鹿北	菊池	阿蘇乙姫	甲佐	八代	水俣	人吉	本渡
1回目 防除適期 第1世代幼虫 (1齢～5齢)	7月22日	7月24日	7月22日	7月24日	7月24日	7月27日	7月24日	7月24日	7月24日	7月24日	7月24日
	～ 8月1日	～ 8月4日	～ 8月2日	～ 8月4日	～ 8月4日	～ 8月9日	～ 8月4日	～ 8月4日	～ 8月4日	～ 8月4日	～ 8月4日
2回目 防除適期 第2世代幼虫 (1齢～5齢)	8月18日	8月21日	8月19日	8月23日	8月22日	8月31日	8月22日	8月21日	8月22日	8月22日	8月22日
	～ 8月29日	～ 9月1日	～ 8月30日	～ 9月4日	～ 9月3日	～ 9月15日	～ 9月3日	～ 9月1日	～ 9月3日	～ 9月3日	～ 9月3日

※各地点のアメダスデータ平均気温（本年値及び平年値）をもとに、下記の条件による有効積算温度により发育ステージを予測した。7月14日までは実測の平均気温、以降は平年の平均気温をもって有効積算温度にて試算した。

ステージ	有効積算温度(日度)	发育0点(℃)	備 考
成虫	125	12	産卵までの期間
卵	135	11.4	孵化までの期間
幼虫	250	6.5	1齢～5齢幼虫の期間

表5 予測されるコブノメイガの防除適期（令和8年6月22日の飛来を起点）

地点名	熊本	三角	岱明	鹿北	菊池	阿蘇乙姫	甲佐	八代	水俣	人吉	本渡
1回目 (粒剤) 第1世代 発蛾最盛期	7月26日	7月27日	7月26日	7月28日	7月27日	8月3日	7月27日	7月27日	7月26日	7月27日	7月27日
	～ 7月29日	～ 7月30日	～ 7月29日	～ 7月31日	～ 7月30日	～ 8月7日	～ 7月30日	～ 7月30日	～ 7月29日	～ 7月30日	～ 7月30日
1回目 (液剤) 第2世代 若齢幼虫期	8月2日	8月3日	8月2日	8月4日	8月3日	8月10日	8月3日	8月3日	8月2日	8月3日	8月3日
	～ 8月5日	～ 8月6日	～ 8月5日	～ 8月7日	～ 8月6日	～ 8月14日	～ 8月6日	～ 8月6日	～ 8月5日	～ 8月6日	～ 8月6日

※各地点のアメダスデータ平均気温（本年値及び平年値）をもとに、下記の条件による有効積算温度により发育ステージを予測した。7月14日までは実測の平均気温、以降は平年の平均気温をもって有効積算温度にて試算した。

ステージ	有効積算温度(日度)	发育0点(℃)
成虫	50	13
卵	50	13
幼虫	250	12.5
さなぎ	90	14.2

熊本県病虫害防除所
（熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）
担当：清永 TEL 096-248-6490